

- 育苗箱1枚当たり乾粃200～300gで播種。育苗後、慣行と同じ本数を移植します。
- 使用する育苗箱数が大きく減り、育苗日数が短縮されます。

【期待される効果】

1. 育苗培土・育苗箱などの物財費を削減
2. 播種・育苗・田植え時の労働費低減
3. 育苗ハウスの有効活用による所得増大
 - ・水田経営面積拡大への対応
 - ・遊休ハウスへの高収益性品目の導入

概要

メーカー・農業試験場	技術	播種量(乾粃) (g/箱)	育苗日数 (日)	苗丈 (cm)	葉齢 (葉)	10aあたりの 育苗箱数(枚)
ヤンマー	密苗	250～300	15～20	10～15	2.0～2.3	7～8 坪60株植
クボタ	密播苗	約250	10～21	10～13	1.5～2.2	9～11 坪50～60株植
井関農機	密播疎植	220～250	14	12～15	2.0～2.5	約6 坪37株植
宮城県	常時被覆による簡易な 無加温出芽乳苗育苗	220	10～14	8～12	1.3～1.5	約13 坪60株植
佐賀県	短期苗移植栽培	200～220	約14	約13	2.0未満	10～12 坪60株植

※農業試験場(宮城・佐賀)の技術は、普及技術として紹介されています。
※「10aあたりの育苗箱数」は、播種量や栽植密度により増減します。



高密度播種(300g/箱)



慣行(140g/箱)



高密度播種での良好なマット形成

コスト削減効果(A県の密苗の事例)

	慣行	高密度播種
育苗あたりの 乾粃量	125g	250g
10aあたりの 育苗箱数	20枚	10枚



10aあたりの コスト (円)	慣行 ①	高密度 播種 ②	削減効果 ②-①
培土代	1,600	800	▲ 800
労働費	1,950	1,340	▲ 610
計	3,550	2,140	▲ 1,410

- ・培土代: 500円/20kgで計算
- ・労働費: 短縮した労働時間 約28分/10a
(播種約5分、育苗約20分、田植えの苗補給約3分)
時給1,300円で計算